

2018年12月

議決権行使結果の開示 および スチュワードシップ・コード活動

に関する自己評価について

(2017年7月～2018年6月)

当社は、「責任ある投資家の諸原則」《日本版スチュワードシップ・コード》を受け入れ、各原則について取組方針を策定しております。

当社の顧客であるアセットオーナー（機関投資家）の皆様には、当社のスチュワードシップ・コード活動状況を、個々にご報告してまいりましたが、当社ホームページにおいても、活動状況を報告するとともに、その自己評価を報告していくこととします。

【当社におけるスチュワードシップ・コード活動】

当社は、第3者が運用する上場日本株ファンドへの投資を通じてのみ、上場日本株に投資しております。当社のファンドマネージャーが上場日本株に直接投資する運用は行っておりませんので、当社が個別企業に対して、エンゲージメント活動や議決権行使を行うことはありません。当社は、投資先ファンドの運用会社がスチュワードシップ・コードの趣旨に則った運用（議決権行使、エンゲージメント活動を含む）を行っているかどうかのモニタリングをしております。

【投資先ファンドにおける議決権行使結果の開示】

当社が投資している日本株上場ファンドは、少数の厳選された銘柄に長期投資することにより、スチュワードシップ・コードの目的でもある「持続的な企業価値の増加」を目指すファンドです。

投資先ファンドの運用会社はその専門性を発揮して投資先企業を選定しているため、投資先企業の個別名が開示されません。アセット・オーナー（委託者・委任者である機関投資家）の皆様には、この点をご説明のうえ当該ファンドに投資しております。従って、当該ファンドの議決権行使状況は、議題別の集計結果のみの開示となります。

当社が投資している日本株上場ファンドによる2017年7月～2018年6月に開催された株主総会における議決権行使結果は、下表のとおりです。

1. 会社提案議案

| 議案内容 | 賛成 | 反対 | 棄権 | 白紙委任 | 合計 | 反対比率 |
|---------------------------|-----|----|----|------|-----|------|
| 剰余金の配当等 | 16 | 0 | 0 | 0 | 16 | 0.0% |
| 取締役選任 | 232 | 0 | 0 | 0 | 232 | 0.0% |
| 監査役選任 | 17 | 0 | 0 | 0 | 17 | 0.0% |
| 定款一部変更 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0.0% |
| 退任取締役に対し退職慰労金贈呈 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.0% |
| 退任監査役に対し退職慰労金贈呈 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.0% |
| 役員報酬額改定 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0.0% |
| 役員賞与支給 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0.0% |
| 補欠監査役選任 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0.0% |
| ストックオプションとしての新株予約権発行に関する件 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0.0% |
| 補欠取締役選任 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.0% |
| 合計 | 284 | 0 | 0 | 0 | 284 | 0.0% |

2. 株主提案議案

該当なし

個別議案に対する議決権の行使判断にあたっては、ファンドの運用会社が制定した議決権行使ガイドラインに基づき行使していることを、当社は確認しております。

ファンドの運用会社は、すべての議案に対して賛成の議決権を行使しています。ファンドの運用会社は、投資前のエンゲージメント活動等を通じて、現経営陣による事業の構造的強靱性と持続的企業価値の増大を確認した上で、当該企業への長期投資決定を行っております。このため、議決権行使において、原則として賛成票を投じる方針であることを確認しております。

【エンゲージメント活動】

ファンドの運用会社がテーマ別に下記のエンゲージメント活動を行い、投資先企業との間で「目的をもった対話」を実施していることを確認しております。

| テーマ | 実施数 |
|--|-----|
| 企業価値を高めるビジネスモデルの内容（経営理念・ビジョン、具体的な事業戦略） | 31 |
| 長期的な資本生産性の考慮 | 3 |
| その他 | 2 |
| 合計 | 36 |

【利益相反管理】

当社は、運用会社における利益相反管理体制をオンサイト・デュデリジェンスや質問状等で確認しております。また、当社関連会社が運用に関与するファンドに対して、当社の裁量で受託・受任した資金を投資しているため、類似の投資戦略をとっている日本株上場ファンド（ピアグループ）のパフォーマンスと定期的な比較を行っております。

【スチュワードシップ・コード活動に関する自己評価】

現時点では、スチュワードシップ・コードに準拠した運営を行ってきていると自己評価します。

当社顧客であるアセットオーナー（機関投資家）におけるスチュワードシップ・コード準拠に対する認識の高まりを受け、今後もファンド運用会社におけるエンゲージメント活動状況モニタリング、アセット・オーナーに対するスチュワードシップ・コード活動状況の報告の強化等を図っていきます。

以上